安全で楽しいキャンピングカーライフを
ご利用していただくために

キャンピングカーはボディーサイズが乗用車やワゴン車と異なり、ひと回り大きいサイズとなります。

また、居住に関わる重量のある設備を数多く取り付けていますので運転には十分にお気をつけください。

＜出発前＞

■　積載物の確認及び重量バランスの確認（走行安定性を確保する）

トランク等に積んだ積載物の重量が偏ると車両姿勢が不安定になり、安全運転の妨げになります。動かないようバランス良く積みましょう。

■　車両に装着してある設備の点検（走行時の脱落を防止する）

サイクルキャリア、その他設備等が何らかの理由などで緩んだり、外れたりしていないかを確認します。

■　エントランスドア・バケッジドアの施錠確認（うっかり事故の防止）

各場所にはキーシリンダーが着いています。止め忘れると走行時に開いて事故の原因となります

■　サブバッテリーの電圧の確認
サブバッテリーの電圧がエンジン始動前で 11V 以下になっている場合はエンジンをかけて事前に充電をしてから使用してください。

特に 10V 以下の場合は充電を行いましょう。

■　荷物の積み残しの確認

積み残しや外部ケーブルなどがつながっていないか確認しましょう

＜エンジン始動時＞

■　メーター上の警告の確認

車体の不具合がないかどうか確認します。

■　エンジンの異音の確認

エンジンの不具合がないかどうかを確認します。

■　サブバッテリーの電圧の確認

エンジン始動時に電圧が上がっているかどうかを確認します

■　燃料の残量の確認

十分な燃料が入っているかを確認します。

＜走行時＞

■　強風時の走行について

キャンピングカーは車高が高いため、横風などにあおられる場合があります。道路などに設置している吹流しや煙突の煙、立ち木の揺れ方など、自然の動きをよく見ながら安全運転を心がけましょう。

トンネルの出口や暴風壁の切れ目などで風によりハンドルを取られる場合がありますので、十分注意して走行してください。

もし車体がバランスを崩したときは、フットブレーキをかけずに、エンジンブレーキや惰性で徐々に減速していきましょう。

■　**車体のサイズと見切りについて**

走行時、車両の上部、左右、後部をよく見ながら運転をしましょう。

特に高さ制限のある場所、見通しのわるい交差点、細い道路などでの軒先や標識の出っ張り、立ち木の枝などで車両を損傷する場合があります。

良かれと思って道を譲ったときに、路肩の枝で車を壊すこともあります。

■　車体の下へのもぐりこみの注意

小さいお子様のいるご家庭では、車両の床下へのもぐりこみに注意しましょう。何らかの理由で車両の下へもぐりこむことで重大な事故になる可能性があります。

■　砂地やぬかるみでの走行について

車両重量が重いので深みにはまる可能性があります。 車重で脱出が難しくなる場合がありますので、そのような場所はできるだけ避けるようにしてください。

■　積雪路や凍結路での走行について

ゆとりある運転を心がけて、急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは行わないようにしましょう。

特に凍結路の急な下りなどでは、タイヤがスリップして自重ですべり落下する可能性があります。事前に道を確認して十分スピードを落として走行してください。

ABS, ASR などを過信しないようご注意下さい。 また、スタッドレスタイヤだけでなくチェーンも携帯して、万が一の場合に備えましょう。

エンジンブレーキ、排気ブレーキ、フットブレーキを状況に応じて使い分けて安全に運転をしましょう。

＜停車・駐車時について＞

■　停車・駐車時の確認

車両を停車、駐車する場合は必ずギアを P(パーキング)にしてパーキングブレーキをしっかりかけてください。

また、斜面に停車、駐車する場合は車輪に輪留めをかけるようにしましょう。

パーキングブレーキが十分にかかっていないと車両が動いて大きな事故になる場合があります。

■　お車から離れるとき

停車、駐車などで車から離れる時は必ず施錠をしましょう。

キャンピングカーは生活道具や高価な部品がたくさんついており、車体だけではなく、物品類の盗難の可能性もあります。

また、普通車と異なり、車体が大きく狭い場所では威圧感があるため、周りの人に迷惑がかからない駐車を心がけるようにしましょう。

＜日常点検について＞

■　タイヤの確認

タイヤはゴム製品なので、走行中の振動や路面から受ける熱などによって劣化します。

劣化が進むとバースト(破裂)を起こす可能性が出てきますが、特に夏は日照りによってアスファルトの温度が上 がるため、タイヤの温度も上昇し、バーストの発生率が高くなります。

このようなバーストを防ぐためには、ご自分の車のタイヤの状態をこまめにチェックする習慣を身につけるように してください。

✓ スリップサインについて

タイヤの使用限度は、一般的に残り溝(1.6mm 以上)やキズ・亀裂の有無から判断することができます。 サイドウォールなどにヒビが入っているのを見つけたら「危険信号」だと意識してください。

また「スリップサイン」が出ているかどうかを必ずチェックしてください。 これは、タイヤの限界が来たことを伝えるサインのことで、タイヤの溝底に設けられた 1.6mm のゴムの盛り上がり部分のことを指します。

スリップサインは、残り溝 1.6mm という法令(道路運送車輌の保安基準第9 条)で定められた最低ラインを示す表示ですから、これが見えてきたら、そのタイヤの使用は控えてください。

できれば、これが見える前に新品タイヤと交換しましょう。

また、小形トラック用タイヤは、高速道路を走行する場合は 2.4mm 以上の残り溝が必要となります。

このようなタイヤを履いている車両は、その使用制限を守ってください。

✓ 常に適正な空気を保つ

空気圧が適正でないと、溝やキズ・亀裂の有無とは関係なくバーストを起こす可能性が高まります。

ゴムは空気を通しますので、タイヤの空気圧は１ヶ月の間に約３~５%低下します。したがって、空気圧の点検は、最低１ヶ月に１度は行なってください。

車両の指定空気圧は、車両のドア付近に表示されています。不明の場合には、当社または 販売店にご相談ください。

空気圧を調整するときは、指定空気圧を下回ることのないように、10%を上限として、少し高めに調整してください。

タイヤの空気圧は、走行前の冷えている時に、エアゲージにより点検し、ビルダーの指定空気圧に調整してください。

✓ タイヤの変形

長期間同じ場所で保管しておくとタイヤが重みで変形し形にクセが付く事があります。

そのまま高速道路など走られると最悪バーストする危険性が高まりますので、乗らなくても定期的に動かし接地 部分を変えるようにしてください。

✓ 荷物の積みすぎに注意

タイヤが劣化する度合いは、車を使われる方の運転の仕方や荷物の積み方で異なります。

まずは空気圧を適正に保ち、過積載を行なわないなど、日頃の心がけが必要です。

走行中に異常な振動を感じたら直ちに停車し、タイヤをチェックしてください。

■ オイル・クーラント・ウォシャー液の確認

オイルの汚れ、クーラントやウォッシャー液の残量を確認します。